

## 2018年9月号 簿記論 つぶ問

### 2問目

#### 【問題】

各仕訳はどのような取引を表したものであるか、選択肢の中から適切と考えられるものをすべて選びなさい。

例題	仕 入	60,000	買 掛 金	60,000
----	-----	--------	-------	--------

A.総記法での商品仕入 60,000 B.三分法での商品仕入 60,000

C.売上原価対立法での商品仕入 60,000

⇒答えは B のみ

(1)	買 掛 金	80,000	商 品	80,000
-----	-------	--------	-----	--------

A.分記法での仕入値引 80,000 B.分記法での仕入戻し 80,000

C.総記法での仕入戻し 80,000 D.小売棚卸法での仕入戻し 80,000

E.売上原価対立法での仕入値引 80,000 F.売上原価対立法での仕入戻し 80,000

(2)	商 品	40,000	売 掛 金	40,000
-----	-----	--------	-------	--------

A.分記法での売上値引 40,000 B.分記法での売上戻り 40,000

C.総記法での売上戻り 40,000 D.小売棚卸法での売上戻り 40,000

(3)	商 品	50,000	商品販売益	50,000
-----	-----	--------	-------	--------

A.分記法での商品販売による利益 50,000 B.総記法での商品販売による利益 50,000

C.小売棚卸法での商品販売による利益 50,000 D.小売棚卸法での商品の値上げ 50,000

(4)	商品販売益	30,000	売 掛 金	30,000
-----	-------	--------	-------	--------

A.分記法での売上値引 30,000 B.分記法での売上戻り 30,000

C.総記法での売上戻り 30,000 D.小売棚卸法での売上値引 30,000

E.小売棚卸法での売上戻り 30,000

【解答・解説】

(1)	買掛金	80,000	商品	80,000
-----	-----	--------	----	--------

- A.分記法での仕入値引 80,000   ○B.分記法での仕入戻し 80,000  
○C.総記法での仕入戻し 80,000   ×D.小売棚卸法での仕入戻し 80,000  
○E.売上原価対立法での仕入値引 80,000   ○F.売上原価対立法での仕入戻し 80,000  
⇒仕入戻しは仕入と逆の仕訳になるため、B・C・Fが当てはまります（原価 80,000 の商品にそのまま利益を上乗せせず 80,000 で販売する予定であったが、これを返品したと考えるならば D も当てはまります）。また、仕入値引は仕入価額の事後的な減少であるため、仕入時の仕訳の金額を減らす仕訳として A と E も当てはまります。

(2)	商品	40,000	売掛金	40,000
-----	----	--------	-----	--------

- ×A.分記法での売上値引 40,000   ×B.分記法での売上戻り 40,000  
○C.総記法での売上戻り 40,000   ○D.小売棚卸法での売上戻り 40,000  
⇒売上戻りは売上と逆の仕訳になるため、C と D が当てはまります。A は商品販売益 40,000 を減らす仕訳、B は利益率を 25%とすると商品を 30,000 増やすとともに商品販売益を 10,000 減らす仕訳となります（原価 40,000 の商品をそのまま 40,000 で販売した後に返品を受けたと考えれば B も正解です）。

(3)	商品	50,000	商品販売益	50,000
-----	----	--------	-------	--------

- ×A.分記法での商品販売による利益 50,000   ○B.総記法での商品販売による利益 50,000  
×C.小売棚卸法での商品販売による利益 50,000   ○D.小売棚卸法での商品の値上げ 50,000  
⇒商品を増やして商品販売益を計上する仕訳は総記法における決算整理で特徴的なものであり、B が当てはまります。また、当初設定した販売価額を修正して値上げ（まだ商品は販売していない）した際に、小売棚卸法において仕入時に計上した商品売価と商品販売益を修正する仕訳と見れば D も当てはまります。

(4)	商品販売益	30,000	売掛金	30,000
-----	-------	--------	-----	--------

- A.分記法での売上値引 30,000   ×B.分記法での売上戻り 30,000  
×C.総記法での売上戻り 30,000   ○D.小売棚卸法での売上値引 30,000  
×E.小売棚卸法での売上戻り 30,000  
⇒売上値引は販売価額が事後的に減少する取引であるため、売掛金とともに利益が減少します。そこで、期中取引の売上時（分記法）もしくは仕入時（小売棚卸法）で商品販売益を計上している A と D が当てはまります。売上戻りは(2)でみたように売上の反対仕訳となるため、B と D は当てはまりません。